

後患を顧みず

は  
討  
と  
う  
思  
い  
側  
近  
た  
ち  
言  
う  
こ  
と  
に  
は

側近たち

言うことには

② 舎人に少孺子なる者有り。 ③ 諫めんと欲するも敢へてせず。  
④ 則ち丸を懷き。 弾を操りて、後園に遊ぶ。  
そこで弾懷に入れはじき弓手にとつ 裏庭で歩き回つた。  
といふがいた。  
抑え止めよう思つたが進んでしなかつた。

⑤ 露は彼の衣を濡らせた  
露  
其の  
衣を沾す。

⑥ 是くのごとき者三日なり。 は 朝三日間 こと ような こと は であつた

〔力四命〕

⑦ 吳王曰はく、  
「子來たれ。  
何ぞ苦しみて衣を沾すこと  
言うことには お前 こつちに來い  
どうして 辛く思つ このよう衣類 濡らして いるのか  
が

此くのことを。」と。

少孺子が  
言うことには  
「園の庭  
中に木  
あるが  
樹有り。其の上に  
ある。その  
有り。」  
といいます

⑨ は  
高いところにいて  
高い声で鳴い  
て 飲んで  
高居し 悲鳴し て 露を飲み、

螳螂の其の後ろに在るを知らざるなり。 カマキリがいること ないのである。

⑩ 蟻は身を委ねて曲附し、  
・を取らんと欲し、  
カマキリは  
体かがめ  
脚を縮めて  
ところう  
思い

しかしスズメが近くいること。このあるのである。されば、  
而も黄雀の其の傍らに在るを知らざるなり。

⑫此の三者は、皆務めて其の前利益を得んと欲し  
ぜひとも

しかし、災難がことあることない。」と。」  
而も其の後ろの患へ有るを顧みざるなり。」と。

⑯ 呉王曰はく、「善きかな。」と。乃ち其の兵を罷む。  
—— 言うことには、ようしいなあそこで出兵取りやめたが